

『朱漆山水楼閣人物箔絵菊花形合子』 修理報告

佐久本純¹ 土井菜々子²

I. はじめに

本資料は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の『朱漆山水楼閣人物箔絵菊花形合子』である。令和4年5月9日より令和5年3月28日まで沖縄県立博物館・美術館修理修復室内の琉球漆工藝舎にて修復が行われた。修復にあたっては、佐久本純を担当職員とし、土井菜々子を修復責任者兼担当者とした。

II. 修理報告

1. 名称

朱漆山水楼閣人物箔絵菊花形合子 (No. 56)



2. 員数・法量(mm)

一合 高さ 103 径 64

3. 資料概要

二十四弁三段重ね、印籠蓋造りの菊花形合子。肩は丸みを持たせ、蓋鬘との境目に稜線を付ける。菊花形の高台を付す。外側は朱漆塗に箔絵を施し、内側と底裏は黒漆塗。甲は山水人物図が描かれる。各段の二箇所窓枠を設け、枠内に山水楼閣人物図を描き、枠外は麻の葉紋で埋める。

¹ 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室 琉球文化財研究係 主事

² 琉球漆工藝舎 代表

4. 損傷状態

資料全体に汚れが付着し、黒味を帯びていた。甲に小さな円形の亀裂が見られる(図1)。肩には比較的大きい塗膜欠損があり、下地が露出していた。蓋鬘には、一箇所、木地亀裂が入り、その周辺塗膜の剥離剥落が外側、内側共に見られる(図2-1)。その他、打痕も数箇所あり(図2-3)。肩の打痕と蓋鬘の欠損箇所には過去に修理をした形跡が見られた。



図1 円形の亀裂



図2-1 肩部塗膜欠損およびの蓋鬘木地亀裂



図2-2 蓋鬘木地亀裂内側



図2-3 打痕

一段目の立上り部分は、一周にわたり多数の欠損があり、下地や布繊維が露出していた(図3-1, 3-2)。内面の隅角には、汚れが付く(図4)。側面には、縦方向に木地亀裂が生じ、その内側の塗膜が僅かに浮いている(図5-1, 5-2)。その他、畳付きの部分に塗膜の欠損が見られる(図6)。



図3-1 立上り欠損部



図3-2 立上り欠損部



図4 見込み汚れ



図5-1 一段目側面亀裂



図5-2 一段目側面亀裂内側



図6 一段目畳付き 欠損部

二段目は、立上りの縁に数箇所の塗膜欠損が見られた(図7-1,7-2)。三段目は、見込みにごく僅かな塗膜剥離がある(図8-1)。合口の立上りと側面との接合面に亀裂と塗膜剥離が生じていた(図8-2,8-3)。高台の口縁にも塗膜の欠損が生じていた(図8-4)。



図7-1 二段目立上り欠損部



図7-2 二段目立上り欠損部



図8-1 三段目見込み塗膜剥離



図8-2 三段目合口亀裂

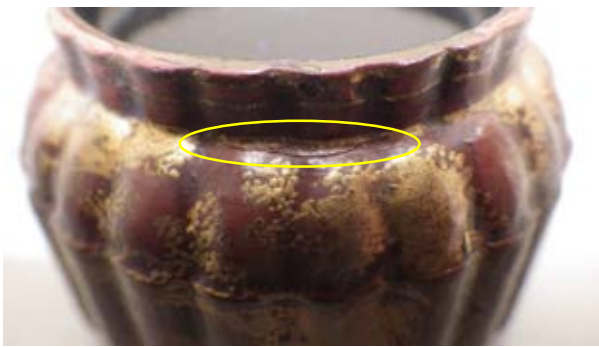


図 8-3 高台亀裂

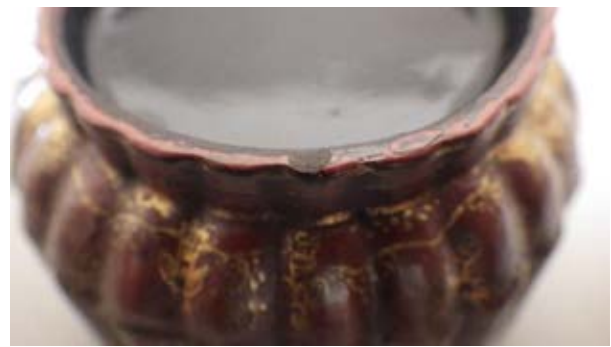


図 8-4 高台欠損部

5. 修理原則

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修理に則り、現状保存修理を原則として行う事とする。修理に際しては、十分に事前調査を行い、傷み等の現状を確認した上で修理工程を決定する。また、写真撮影を伴った修理の記録を取り、修理後と比較できるようにし、修理終了後報告書を作成し提出する。

6. 修理方針

火災被害による塗膜の黒ずみやシミは、火災前の状態に近づけるよう、可能な範囲で除去を行う。塗膜の劣化に対しては漆固めを行い、強化させる。

7. 修理工程

- ①修理前写真撮影、調査
- ②クリーニング
- ③漆固め
- ④塗膜押さえ
- ⑤刻苧充填
- ⑥下地付け
- ⑦修理後写真撮影
- ⑧報告書作成

8. 修理内容

はじめに修理後との比較ができるよう、修理前撮影および現状調査を行った。資料全体の埃を払った後、精製水で湿らせた綿布を用いて拭き上げた。油分を含んだ汚れは、エタノール水溶液(60～70W/V%)を用いた。塗膜全体の黒ずみは、重曹水(3～5W/V%)を使用し、慎重に進めた。なお、重曹水を使用した際は汚れと混合してできた塩を残留させないように精製水で十分に拭き取った(図 9-1、9-2)。



図 9-1 クリーニング



図 9-2 重曹水クリーニング

次の工程の前処置と艶を取り戻すための摺漆を施した。生漆を溶剤³で希釈したものを塗膜に塗布し、表面に漆が残らないよう、しっかり拭き取った。朱漆塗面には色味の変化を避けるため、調合した透漆(木地呂、梨子地、生上味)を使用した。(図 10)。



図 10 漆の塗布

塗膜の剥離や木地構造の亀裂を押さえるため、各修理部分の形状に合わせて木型や塩化ビニルシートで治具を作成した。接着作業は、亀裂部分や剥離塗膜の下に溶剤で希釈した麦漆を含浸させ、溶剤を揮発させた後、クランプ等で安定させた(図 11-1, 11-2, 11-3)。



図 11-1 麦漆含浸



図 11-2 クランプで圧着

塗膜欠損箇所には、刻苧を充填した。欠損箇所が大きい部分は数回に分けて充填を行ない、形状を復した(図 12)。刻苧の表面には下地を付け、水研ぎや摺漆による調整を施した(図 13)。最後に、修理前と比較出来るよう、修理後の撮影を行った。



図 11-3 ハタガネで圧着

³ ターペンタイン/ホルベイン社



図 12 刻苧充填



図 13 下地付け

9. 修理場所

沖縄県立博物館・美術館内修理修復室

10. 修理期間

令和4年5月9日～令和5年3月28日

11. 所見

- ・箔絵の下付けには、黄色漆が使われている。
- ・合口に付く立上り部分には、布着せが確認できる。

修理前修理後写真



全景 修理前



全景 修理後



蓋 修理前



蓋 修理後



二段目立上り 修理前



二段目立上り 修理後



四段目高台 修理前



四段目高台 修理後